



「全国学力・学習状況調査の分析から・・・」

9月は猛暑のなかにおいて、「出しきろう 俺らの全力！！ 青春ファイターズ！！」のスローガン通り、陸上競技大会や体育大会を山陽中生は全力で取り組み、大きな成果をあげることができました。地域の方々や保護者の皆様のご声援に感謝します。体育大会後も「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉が当てはまらないくらい、気温が高い日が続いていましたが、ようやく日差しも和らぎ、読書や芸術、スポーツ、そして勉学に親しむ秋の始まりを感じています。新型コロナやインフルエンザの罹患者は若干いましたが、幸いにも校内感染による流行が起きずに通常の学校生活を送れています。

さて、9月初めに4月に実施しました全国学力・学習状況調査（以下、学テ）の結果を3年生に返却しました。国語・数学・英語の3教科において、国や県、姫路市の平均と大きな差は見られませんが、令和元年からの4年間（令和2年度は未実施）の結果を分析しますと、少しずつ上向いています。しかし、自分の考えを記述して回答する「思考・判断・表現」を問われる問題では、無回答率が高いのが本校の課題です。「思考・判断・表現」の能力を高めるためには、国語の「話す・聞くこと、書くこと、読むこと」に関して、日々の授業や生活での地道な取り組みが深く関係します。

本校では、昨年度からファシリテーションの手法を国語の授業だけでなく、その他の教科（道徳も含む）や学活などに取り入れています。その結果、学テ・生徒質問紙の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか」の項目では、国や県、姫路市の平均を上回り、生徒自身が実感できているようです。引続き仲間との対話を通して、自己の考えを深め、思考力・判断力・表現力を育ててくれると期待しています。

また、学テ・生徒質問紙回答における5年間（H30、R1・3・4・5）分析では、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「学校の授業以外で、1日当たりどれぐらいの時間、読書しますか」の項目で、平均値を下回り、家庭学習時間や読書量が本校生の課題です。これも「思考・判断・表現」の能力の伸長に大きく影響します。

その日に学校で学んだ内容を、家で振り返って学習する習慣が、自己の能力を向上させます。一度に多く内容を学習するには無理が生じます。計画を立てて、少しずつの積み重ねが自分の脳を成長させます。10月12日から中間考査が始まります。是非、この機会を利用して、しっかりと計画を立てて勉強してほしいものです。

また、読書習慣も生徒のみなさんに身に付けてほしい資質のひとつです。

本校の学テ・生徒質問紙回答分析の中で、「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の項目では、平均値を上回っています。自分のよさを伸ばしたり、夢を実現させたりする上で、読書は欠かせません。

分からないことは、その道の専門家に教えてもらったり、自分がやってみたいことは、体験した人に尋ねてみたりすることが、目標を達成するための一番の近道です。周りにそのような人がいれば、尋ねることはできますが、いないときは書物を読んで学ぶしかありません。また、すでにこの世に存在しない人に尋ねることはできないので、先人が書いた書物を読むことで、教えを乞うことができます。

自分の脳は、他者の力を借りながら、主体的に活動することで変容し続けます。学校や家庭での学習の取組や読書を通して、生徒のみなさんの思考力・判断力・表現力が高められるように努力を続けてください。